

外来化学療法室

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

- 吉山 広嗣(消化器外科部長、がん治療センター副センター長、外来化学療法室長)
- 看護師:16名
- 看護補助者:2名
- 受付事務:1~2名

2. 認定資格取得(2026年3月時点)

資格名	資格取得者
日本看護協会がん化学療法看護認定看護師	山下広恵

3. 運営方針

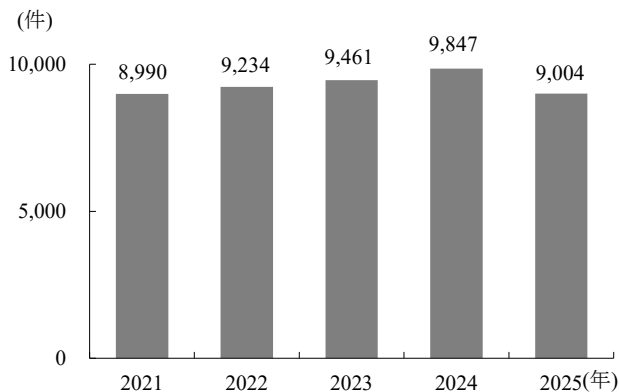
- (1) 質の高いチーム医療のもとに、安全で安心な治療を快適に受けていただけるよう努めます。
- (2) 治療ごとに問題点のスクリーニングを行い、主治医と情報を共有することで、より良い治療や支援、適切な生活支援ができるよう努めます。
- (3) 有害事象への的確かつ迅速な対応で、安全性の高い化学療法を行います。
- (4) 最新情報と専門知識を日々習得し、それに基づいた安全な投与管理を行います。

4. 実績

外来化学療法室は2005年1月に開設し、2026年で22年目を迎えました。開設当初は年間1,713件の実施でしたが、次第に増加を認めました。2025年は9,004件(前年比91.4%)実施、患者数1,096人(前年比95.1%)でした。

疾患別患者数で最も多かったのは大腸癌240人、次に肺癌151人、乳癌138人、膵臓癌108人、悪性リンパ腫75人、胃癌52人、腎細胞癌36人、胆道癌35人、クローン病35人、肝臓癌33人、頭頸部癌23人、膀胱癌21人の順でした。

■ 外来化学療法実施件数



■ 疾患別患者数

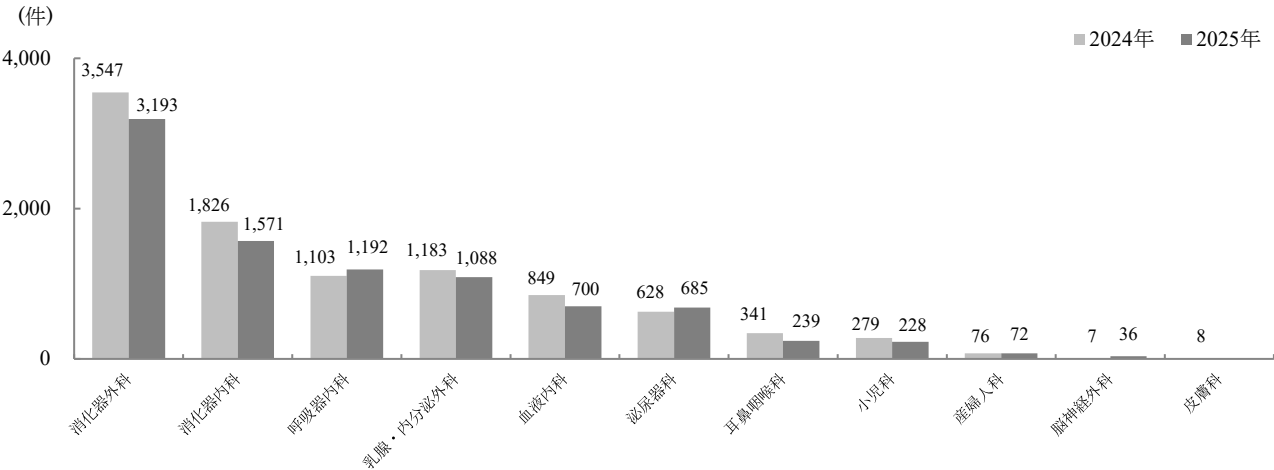
疾患名	2021	2022	2023	2024	2025
肺癌	149	154	150	153	151
胃癌	62	57	65	64	52
大腸癌	196	200	218	246	240
乳癌	121	121	113	135	138
肝臓癌	35	39	34	56	33
膵臓癌	98	107	114	114	108
胆道癌	25	27	37	23	35
食道癌	15	12	15	23	27
悪性リンパ腫	94	88	87	77	75
多発性骨髄腫	25	25	21	16	20
白血病	10	2	0	2	4
骨髄異形成症候群	1	1	0	0	0
卵巣・子宮・腹膜癌	18	13	10	11	7
前立腺癌	11	17	16	25	24
腎細胞癌	26	29	32	37	36
尿路上皮癌	6	6	7	10	13
膀胱癌	19	26	36	31	21
頭頸部癌	27	26	28	32	23
脳腫瘍	10	8	4	2	4
潰瘍性大腸炎	10	12	14	12	12
クローン病	37	41	41	39	35
若年性突発性関節炎	8	10	14	13	12
その他※2	26	29	33	31	26
合計	1,029	1,050	1,089	1,152	1,096

※1)2019年 免疫チェックポイント阻害薬の適応拡大、小児科導入等により、多様な疾患の治療が増加

※2)その他の疾患は、キャスルマン病、悪性胸膜中皮腫、血小板減少性紫斑病、ベーチェット病、全身性エリテマトーデス等

実施件数の多かった診療科は消化器外科3,193件、消化器内科1,571件で、消化器外科・内科で52.9%の実施となっています。続いて呼吸器内科1,192件、乳腺・内分泌外科1,088件でした。増加していたのは呼吸器内科89件、泌尿器科57件、脳神経外科29件でした。

■ 診療科別実施件数



■ 診療科別主な実施レジメン(2025 年)

レジメン名
血液内科
Rituximab、R-CHOP、Pola-R-CHP、IsaVRd 療法、Kd 療法、Pola-BR、(R-)GDP、A+CHP、A-AVD 療法、アクテムラ、治験
呼吸器内科
ペムブロリズマブ、デュルバルマブ、Ipi-NIVO、CDDP+VNR(short hydration)、CBDCA+PEM+Amivantamab、CBDCA+(PEM+Pembrolizumab or nab-PTX+Pembrolizumab or Atezolizumab)、CBDCA+PTX+BEV+Atezolizumab、CBDCA+(ETP or ETP-Atezolizumab or nab-PTX or PEM)、DTX、RAM+DTX 併用療法、IVCYC(IP)、治験
消化器内科・外科
GEM+nab-PTX、デュルバルマブ+GC、SOX+(ニボルマブ or トラスツズマブ or ペムブロリズマブ)、RAM+PTX 併用、ベバシズマブ+(mFOLFOX6 or FOLFIRI or mFOLFIRINOX or ロンサーフ)、ベクティビックス+(mFOLFOX6 or FOLFIRI)、セツキシマブ+(mFOLFOX6 or エンコラフェニブ+ビニメチニブ)、オニバイド+5FU/LV、アテゾリズマブ/ベバシズマブ、ゾルベツキシマブ+(mFOLFOX6 or XELOX)、RAM+FOLFIRI、トレメリマブ+デュルバルマブ、インフリキシマブ、治験
産婦人科
M-TC、dose-denseTC+ベバシズマブ療法、ドキシル、ペムブロリズマブ
乳腺・内分泌外科
CBDCA+PTX+Pembrolizumab、EC、dd-EC、EC+Pembrolizumab、dd-PTX、DTX、TC、トラスツズマブ、トラスツズマブ+パージェタ-DTX、トラスツズマブ+PTX、ベバシズマブ+パクリタキセル、エリブリン、カドサイラ、エンハーツ、ドセタキセル+フェスゴ、トロデルビ、ダトロウエイ
泌尿器科
GC 療法、GCa 療法、DTX、カバジタキセル、アキシチニブ+(ペムブロリズマブ or アベルマブ)、ペムブロリズマブ、ニボルマブ、エンホルツマブベドチン、ニボルマブ・イビリムマブ併用療法、ニボルマブ+GC(尿路上皮癌)(short hydration)、デュルバルマブ+GC(short hydration)
耳鼻咽喉科
頭頸部癌 Cmax+パクリタキセル、トラスツズマブ+DTX、ペムブロリズマブ、ニボルマブ、PCE
脳神経外科
ベバシズマブ+TMZ
小児科
インフリキシマブ、アクテムラ、ベンリスタ、オレンシア

診療科別の主な実施レジメンでは、複数の診療科において複合免疫療法レジメンの使用が増加しています。患者年齢分布では 40 歳台の患者が増加、60 歳以上の患者は 73.1%を占め、高齢化の傾向が続いています。

■ 年齢別患者数

年齢(歳)	2023	2024	2025
0～ 9	4	6	6
10～19	30	33	28
20～29	14	15	8
30～39	23	26	26

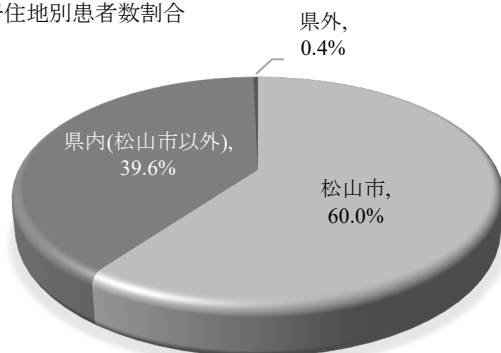
40～49	58	61	73
50～59	120	138	154
60～69	261	275	259
70～79	421	469	409
80～89	150	125	130
90～	8	4	3
合計	1,089	1,152	1,096
平均年齢	66.4	65.7	65.3

患者居住地域では広範囲な地域からの通院が多く、医療・看護・介護について、治療期からの地域との連携を視野に入れた病診連携が今後も重要であると考えます。

■ 居住地別患者数

地域	患者数	地域	患者数
松山市	658	内子町	20
松前町	81	大洲市	40
砥部町	23	八幡浜市	30
伊予市	88	伊方町	11
四国中央市	10	西予市	16
新居浜市	13	宇和島市	9
西条市	20	愛南町	7
今治市	38	鬼北町	2
久万高原町	17	高知県	3
東温市	9	香川県	1
合計		1,096	

■ 居住地別患者数割合



■ 外来化学療法室の運営状況

項目	2021	2022	2023	2024	2025
年間 実施件数	8,990 件	9,234 件	9,461 件	9,847 件	9,004 件
月別 実施件数	689～827 件	693～826 件	722～917 件	771～875 件	688～837 件
日別 件数中央値 (最小～最大)	34.9 件 (13～65)	36.5 件 (20～67)	37.3 件 (15～64)	39.7 件 (22～71)	36.7 件 (14～70)
年間利用患者数	1,029 人	1,050 人	1,089 人	1,152 人	1,096 人
患者平均年齢 (最小～最大)	64.8 歳 (5～98)	66.1 歳 (6～99)	66.4 歳 (7～100)	65.7 歳 (6～101)	65.3 歳 (6～93)
年間新規患者数	453 人	465 人	494 人	515 人	463 人
アレルギー/ 輸注反応出現数	16 件(Grade1-2)	25 件(Grade1-2) 9 月～6 件(Grade1-2)	67 件(Grade1-2) 2 件(Grade1)	64 件(Grade1-3) 10 件(Grade1-2)	27 件(Grade1-2) 5 件(Grade1-2)
スタッフ体制	専従医師:1 人 専任医師:1 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:4 人) 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:11.7 人 (専任看護師:6 人) 病棟アシスタント:1 人 10 月～看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:12.1 人 (専任看護師:5 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:2 人 看護師:13.4 人 (専任看護師:7 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人	専従医師:1 人 看護師:14.2 人 (専任看護師:7 人) 病棟アシスタント:1 人 看護補助者:1 人 受付事務:1～2 人

< 化学療法室運用の変遷 >

- ・ 2005年1月:開設 8床
- ・ 2013年5月:新病院 病床20床+処置室兼用診察室 2床
- ・ 2013年7月:ホルモン薬皮下・筋肉注射導入
- ・ 2014年6月:診療報酬改定に伴い診療科に戻る
- ・ 2016年2月:免疫チェックポイント阻害薬開始、複数診療科で
使用増加
- ・ 2019年10月:小児自己免疫疾患などの治療導入
- ・ 2019年11月:病床20から22床に増床

外来化学療法室は 8 床で開設後、件数増加に対応するため、2013 年 5 月新病院から 20 床、2019 年 11 月には 22 床に増床しました。現在、分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬、治験薬、2023 年からは二重特異性抗体など新薬が増加するとともに、多剤併用の長時間レジメンが増加しています。また、薬剤師が患者面談を行い、有害事象評価と院外薬局との連携を行うなど、院内外が多職種でよりよい治療となるように患者さん、ご家族関わっています。

スタッフは医師 1 人、看護師は随時増減がありますが、現在 16 人(専任 7 人、うちがん化学療法看護認定看護師 1 人・会計年度任用職員等)、受付事務 1～2 人、2017 年 9 月からは看護補助者が配属となり、協働しています。

がん化学療法は、質の向上のため常に新しい取り組みが必要とされます。薬剤師の行う患者指導は入院から外来へ継続し、管理栄養士による栄養指導は通院治療中も受けられる体制となりました。看護師は患者さん、ご家族の思いを聴き、多職種との関わりが持てるように調整しています。常に患者さんの安全を考えた環境を提供し、個々の状態や継続看護を視野に入れた有害事象対策、生活状況を踏まえたセルフケア支援などについてカンファレンスを行い、継続看護に繋げています。また、薬物アレルギー・輸注反応対策のシミュレーション研修を行うなど、緊急時対応の検討を継続しています。新しい情報は実践に活かせるように化学療法マニュアルを改訂し、化学療法チーム院内ホームページに掲載して医療者がいつでも閲覧できるようにしています。

- ・ 2020年2月:抗がん薬皮下注射およびホルモン薬筋肉注射は診療科または中央処置室での実施に変更

5. 2026 年度目標

患者さん、ご家族にとって、より安全で安心して治療を継続できるように多職種で実施します。また、住み慣れた場所で過ごす患者さんの治療と療養生活を支援できるように、多部門と連携を図り、取り組んでいきます。